緊急対応マニュアル

この緊急対応マニュアルはボランティアスタッフも含めた大会関係者に事前に配布し、マニュアルの内容を周知するよう努めます。

また参加者には開会式でのアナウンスや大会ホームページで事前に周知するようにします。

このマニュアルは本部テントに常時設置し誰でも閲覧できるようします。

救急手当からの連絡まで

① 周辺状況と傷病者の観察

事故の際、周辺の状況と傷病者の全身を観察して、状況を把握します。

② 救急車の手配と応急処置

「１１９番」あるいは医療機関に場所や状況を伝えて、応急処置の指示を受けます。

③ 救急車到着までの対応

●応急処理を続けましょう

●保温に努めましょう

●協力者をさがしましょう

●可能であれば安全な場所へ移動させましょう

●声かけを行い励まし続けましょう

●救急車が到着した際に誘導しましょう

④ 記録を残す

日時、場所、程度、証拠品の確保、対応状況など忘れないように記述します

⑤ 関係者への連絡

家族など緊急連絡先へ一報します

⑥ 事務局が情報を集約

集約した情報は、事務局から実行委員長をはじめ、関係団体へ報告する。

主催団体の安全管理責任者の配置

事故が発生した際の安全管理責任に関する範囲の明確化が、重要になります。運営に関わる全スタッフの安全管理に対する意識レベル向上させましょう。

ボランティアスタッフなどで、事業を運営していても、事故が発生した場合、事故を未然に防ぐための注意義務を怠り、主催者の過失があると判断されれば、ボランティアであっても安全管理責任が発生し、法的責任に問われることがあります。

主催者側の責任範囲については事前に大会要項に明記をし、あくまで競技中の事故・ケガのみを保険対象とします。

競技以外での水難事故等は、競技とは関係のない事案と見なし、責任はすべて引率者もしくは保護者の責任とします。

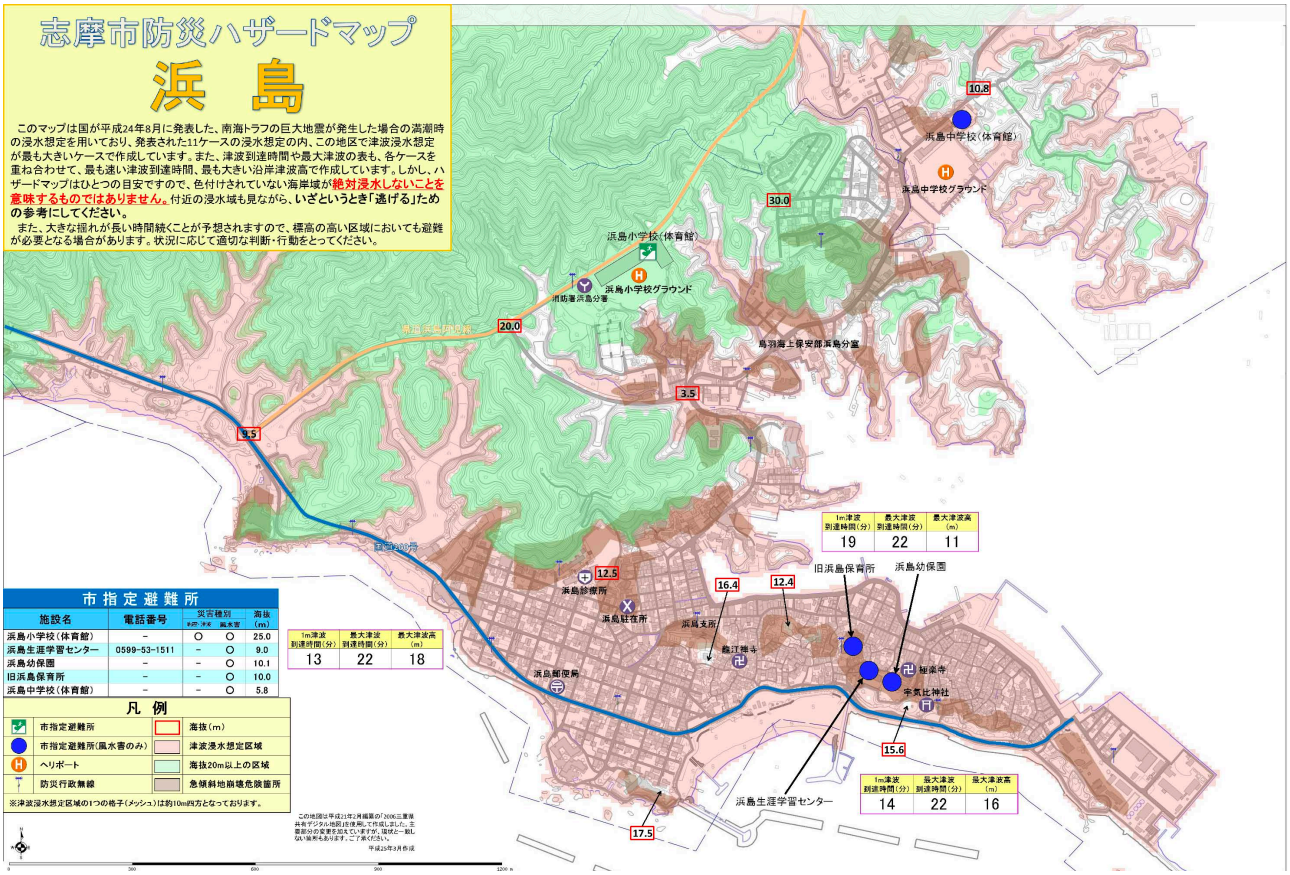
- ☐ 安全管理責任者の配置（事務局を担う者が責任者とする。）
- ☐ 保険に加入（競技中に発生した事故・ケガのみを保険適用とする。）

救護室の設置

万が一に備えて、救護室が必要です。スタッフルームとは別に一区画を設けましょう。プライバシーの問題もありますので、カーテン等で仕切ることも必要です。

- ☐ 救護室の設置
- ☐ 看護師の配置
- ☐ 救急セットの準備
- ☐ 担架の準備
- ☐ ＡＥＤの準備
- ☐ 救命浮輪
- ☐ ライフジャケット
- ☐ サーフボードまたはパドルボード

災害発生時



避難経路の把握と参加者へハザードマップを予め周知する必要がある。

雷が発生した場合の避難場所については下記の通り誘導する。

ハザードマップは本部テント内で掲示をし、大会ホームページでも掲載をする。

建物など身を隠せる場所を探し、そこに避難する。

避難場所としては下記の２つを推奨する。

1. 鉄筋コンクリート製の建物の中（大矢浜管理棟もしくは男女のトイレ）
2. 自動車の中

注意事項

＊海での遊泳に関して大会としては推奨いたしません。遊泳をさせる場合は大会終了後、引率者・保護者の責任のもと救助できる体制で遊泳をさせてください。

試合中の待ち時間では遊泳をしないでください。

大会運営者は遊泳まで監視することはありません。

＊ケガをしたり気分が悪くなった場合はすぐにスタッフに伝えください。

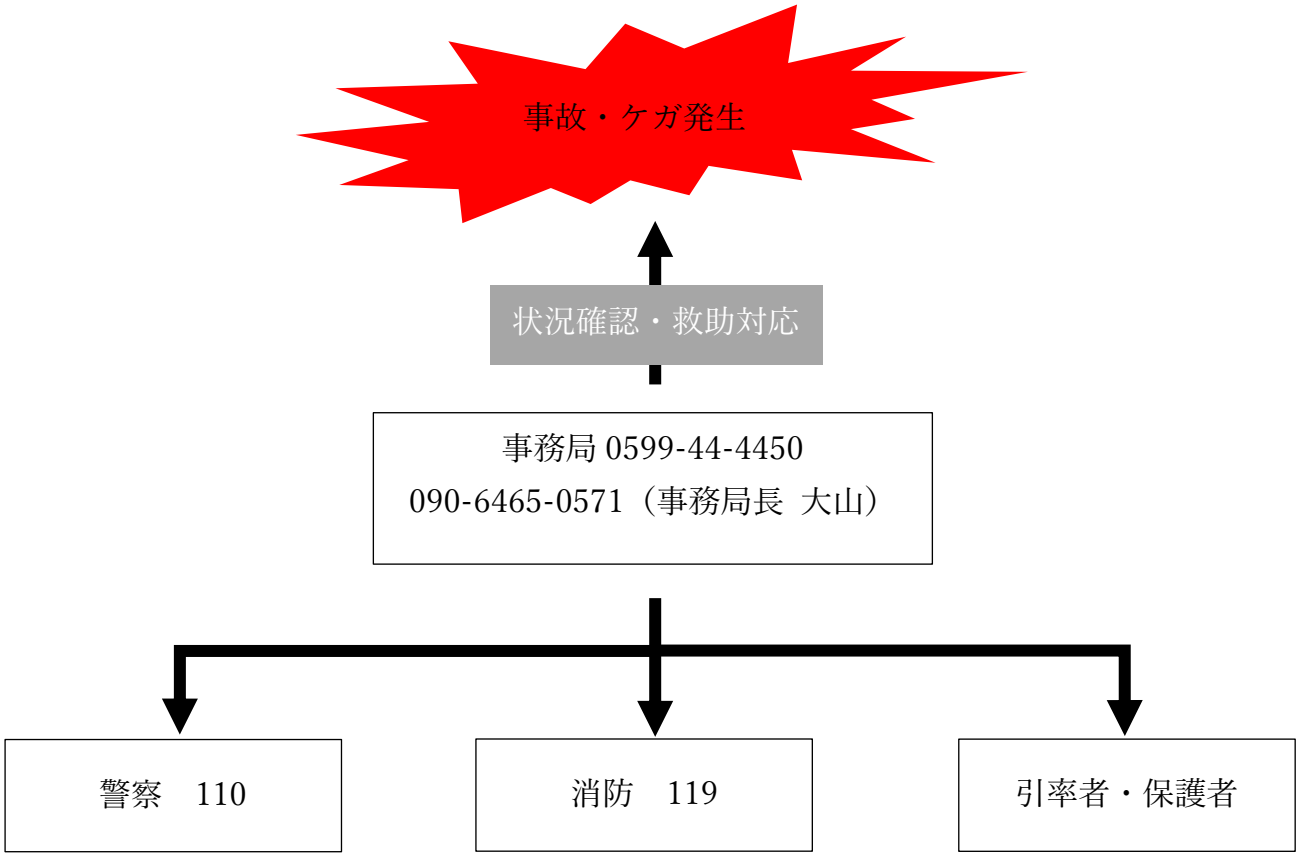
＊爪を切ってから出場してください。

＊必ず単独での行動はせず、グループ行動をしてください。

＊本人又は保護者、引率者の不注意によって競技以外に生じた事故については、主催者による責任は負いかねますので、ご了承のうえ、十分に注意していただきますようお願いします。

＊競技中に生じた事故については、大会側で契約をする傷害保険の適応範囲とします。

　死亡・後遺症：１，０００千円　入院日額：２，０００円　通院日額：１，５００円

＊不慮の事故、災害発生時には主催者の判断で中止・中断となる場合があります。

緊急連絡網